

科目名		講義担当		所属	
フィジカルアセスメント		中川 まゆ子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	30時間
<b>受講上の留意点</b> 1. 演習・技術試験に向け、自己学習時間を確保し技術練習をして臨むことが重要。 2. 実習室の準備・片付けは、注意事項に沿って確実にすること。					
<b>科目のねらい・授業目標</b> 1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得できる 2. 全体の概観、バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理・社会状態のアセスメントについて理解できる 3. ヘルスアセスメントによって得られた結果を、実際のケアに結びつけていく態度を養う					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解できる 2. ヘルスアセスメントに必要な技術を理解できる			講義	
2回目	1. フィジカルアセスメントの基本技術を理解できる 2. フィジカルイグザミネーションについて理解できる			講義	
3回目	1. バイタルサインの観察に必要な基礎知識を理解できる 2. 計測の意味と定義を理解できる 3. 血圧測定技術を習得できる			講義	
4回目	バイタルサイン測定技術を習得できる			演習	
5回目					
6回目	バイタルサインの基本技術を正しく実施する			技術チェック	
7回目					
8回目	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションについて振り返りを行い、理解を深めることができる			講義	
9回目	各器官・系統別のフィジカルアセスメントの基本技術を理解できる 1)呼吸器系 2)循環器・血管系			講義	課題：頭部・頸部（リンパ節甲状腺）
10回目	3)乳房・リンパ系 4)腹部・消化器系			講義	課題：眼・耳・鼻・口
11回目	5)筋・骨格系 6)神経系 7)外皮系			講義	課題：直腸・肛門・生殖器
12回目	心理・社会状態のアセスメントに関する必要な項目とその内容を理解できる			講義	
13回目	フィジカルアセスメントの方法を理解できる			グループワーク	
14回目	フィジカルアセスメントの技術を習得できる			演習	
15回目					
16回目	試験				
<b>評価方法</b> 筆記試験 課題プリント・アセスメント記録用紙					
<b>使用するテキスト</b> 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院					
<b>参考文献</b> 看護がみえる フィジカルアセスメント vol.3 メディックメディア					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 看護過程		講義担当 川口 菜緒美		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	30時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 1. 看護過程の意義と一連のプロセスを理解できる 2. 事例患者を用いて看護過程を展開できる					
授業回数	学習内容と成果		方法	備考	
1回目	看護過程の意義について理解できる		講義		
2回目			グループワーク		
3回目	看護過程の構成要素が理解できる		講義		
4回目			グループワーク		
5回目	意図的、系統的な情報収集法について理解できる		講義		
6回目			グループワーク		
7回目	アセスメント(情報の査定・看護問題の抽出)について理解できる		講義		
8回目			グループワーク		
9回目					
10回目	計画立案の具体的方法が理解できる		講義		
11回目			グループワーク		
12回目	計画の実施・評価もついて理解できる		講義		
13回目			グループワーク		
14回目	事例患者の看護過程を展開できる		講義		
15回目			グループワーク		
16回目	試験				
評価方法 筆記試験 課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 NANDA-I看護診断 定義と分類 医学書院 緊急度・重症度からみた症状別看護過程 第3版 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		講義担当		所属	
地域・在宅看護概論		井上 千鶴子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年前期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 在宅看護が必要とされる社会的背景をふまえ、在宅看護の概念と対象、活動の場、活動の特徴など、役割と重要性が理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	日本の在宅看護が推進される社会的背景と在宅看護のが変遷理解できる。 1.在宅看護の背景			講義	
2回目	在宅ケアにおける在宅看護の特徴・役割や機能を理解できる。 在宅看護における個人・家族と集団を対象とした目的や活動の特徴を理解できる。 1.在宅ケア 2.在宅看護と訪問看護 3.在宅看護の役割・機能			講義	
3回目	在宅看護の基盤となる基本理念とその概要を理解できる。 1.在宅看護を展開するための基本理念 2.在宅看護における倫理			講義	
4回目	在宅看護の対象者の特徴について理解できる。 1.在宅看護の対象と背景 2.法制度からみた対象者 3.ライフサイクルからみた対象者 4.健康レベルからみた対象者			講義	
5回目	5.疾患からみた対象者 6.障害レベルからみた対象者 7.生活の場からみた対象者 8.状態別・状況別対象者 9.地域社会における生活者としての対象者			講義	
6回目	在宅療養の成立要件を理解し、在宅療養者開始時に必要な支援について理解できる。 1.在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 2.在宅療養者への看護活動			講義	
7回目	在宅療養の場における家族の特徴について理解できる。 家族に関するアセスメントを理解できる。 療養者・家族双方に安全な在宅ケアを継続できるための支援について理解できる。 1.在宅療養の場における家族のとらえ方 2.在宅療養者の家族への看護			講義	
8回目	試験とまとめ				
評価方法					
筆記試験					
使用するテキスト					
ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論① メディカ出版					
参考文献					
公衆衛生がみえる 2021-2022 メディックメディア					

科目名 社会の中の成人看護		講義担当 高橋 文子		所属 秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 1.成人期の人々の発達の特徴と課題、健康特性、役割を理解する。 2.健康に影響する諸因子を理解し、保健に必要性を理解する。 3.成人保健の動向を知り、健康な生活を維持増進するための看護の役割を理解する。 4.成人期の心身・社会的成熟・適応に関する知識を深め、心身・社会的成熟・適応を促すための看護理論を理解する。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	成人の特徴を理解できる。			講義 グループワーク	
2回目					
3回目	成人保健の動向を理解できる。			講義 グループワーク	
4回目	成人期における健康問題を理解できる。			講義 グループワーク	
5回目	健康の維持・増進・疾病の予防に向けた看護を理解できる。			講義 グループワーク	
6回目					
7回目	成人の能力や生活背景をふまえた看護援助が理解できる。			講義 グループワーク	
8回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験					
使用するテキスト 系統看護学講座 成人看護学概論 医学書院					
参考文献					

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	成人看護学援助論Ⅰ	担当講師	皆川千年・高橋加代子	単位・時間数	1単位(30時間)	履修時期	2年次前期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 健康レベルを理解し、そのレベルに応じた看護を探求できる 2. 身体的・心理的に危機的状態にある人(急性期)の、生命の危険に対応する看護と精神的支援を理解することができる。 3. 生涯にわたりセルフコントロールを必要とする人(慢性期)の看護を理解することができる。 4. 人生最期のときを過ごす人の看護を理解することができる。 5. がん看護の特性を理解することができる。						
回	学習目標	学習内容		時間			
1	1. 健康レベルを理解する	1.健康レベルのとらえかた	1. 健康の維持・増進 2. 健康生活の急激な破綻 3. 障害をもちながらの生活とリハビリテーション 4. 健康生活の慢性的な揺らぎ 5. 人生の最期のとき	2			
2 3 4 5 6 7	1. 急性期看護の特性を理解する	1.救命救急時の看護 2.周手術期の看護	救命医療・看護の場、プレホスピタルケア、救急医療・救急看護体制、法律と倫理 救急患者とその家族の特徴、緊急度と重症度、救急処置と看護(心肺蘇生法・基本処置・検査・薬剤)、救急患者の主要病態と看護(外傷・熱傷・中毒・熱中症・感染症)、精神の危機的状況にある人の援助 周手術期看護の考え方、倫理的配慮、リスクマネジメント、手術患者の心理と苦痛 手術侵襲による生体反応と回復過程、術前・術中・術後の看護、術後合併症のリスク予測と予防的ケア、手術による変化・喪失の受容支援、セルフケアの支援、継続看護 術式による看護、低侵襲術式の開発 術後疼痛への看護、痛みに影響する要因、痛みの緩和法、痛みの評価	2 9			
	理解の確認	中間試験		1			
8 9 10	2. 慢性期看護の特性を理解する	1.生涯セルフコントロールへの援助	慢性期にある人の心理・社会的特徴、疾病がライフスタイルに及ぼす影響、慢性疾患患者のQOL、病氣と共に生きる生活の支援、自己管理への支援、自己効力感強化の方法、自己概念の修正、家族・患者会による支援	6			
11 12	3-①人生最期のときを過ごす人の特徴と看護の役割が理解できる。 3-②人生最期のときを過ごす人を理解し、患者がよりよく生きるための看護を考えることができる	1. 終末期看護とは 2. 終末期看護の対象	終末期看護概論 ホスピス・緩和ケアの歴史 エンド・オブ・ライフ・ケア:全人的苦痛の理解、症状アセスメント、アドバンスケアプランニング・家族ケア 臨死期の看護 症状緩和、家族ケア、遺族ケア、代理意思決定支援	2 2			
13 14 15	4. がん看護の特性を理解する	1.がん患者の抱える苦痛 2. がん患者の治療と看護	身体的・心理的苦痛 社会的偏見や制約に伴う苦痛 スピリチュアルな苦痛 生活上の困難と社会参加への支援 手術療法 化学療法 放射線療法 集学的治療	6			
16	総合理解	試験		1			
合計時間数				31			
成績評価の方法		出席状況、筆記試験(配点 85%/皆川、15%/高橋)					
テキスト:臨床外科看護総論 臨床外科看護学各論【医学書院】、成人看護学 周手術期看護論【ヌーヴェルヒロカワ】、成人看護学 慢性期看護論 第3版【ヌーヴェルヒロカワ】							
参考図書:成人看護学 成人看護学概論【ヌーヴェルヒロカワ】							

科目名		講義担当		所属	
高齢者を支えるための看護		藤本 具子		秋田市医師会立秋田看護学校	
履修時期	1年後期	単位数	1単位	時間数	15時間
受講上の留意点					
科目のねらい・授業目標 高齢者の医療福祉の動向を理解し、対象とその家族に対する看護の役割を理解できる。 1.高齢者の生活と健康問題について理解できる。 2.高齢者の権利擁護を理解できる。					
授業回数	学習内容と成果			方法	備考
1回目	加齢と老化を理解できる。 1)身体的・心理的・社会的側面の変化 2)高齢者の定義 3)老年期の発達課題 4)高齢者を支える家族の看護			講義	
2回目	高齢者を支える制度と社会資源の活用を理解できる。 1)ヘルスプロモーション 2)健康日本21と介護予防 3)地域包括ケア 4)家族への援助			講義	
3回目	高齢者の権利擁護を理解できる。 1)スティグマと差別 2)高齢者の虐待・身体拘束 3)権利擁護のための制度			講義・グループワーク	
4回目	老年看護のなりたちを理解できる。 1)老年看護の役割と特徴 2)老年看護の理論・概念 高齢者のヘルスアセスメントを理解できる。 1)身体加齢変化とアセスメント			講義	
5回目	高齢者疑似体験			演習	別紙資料参照
6回目	高齢者の終末期の看護を理解できる。			講義・グループワーク	
7回目	高齢者特有のリスクとリスクマネジメントを理解できる。			講義	
8回目	試験・まとめ				
評価方法 筆記試験・課題レポート					
使用するテキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学					
参考文献					

科目名	小児看護学概論	担当講師	薄田 悦子	単位・時間数	1単位(15時間)	履修時期	2年次・前期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 小児の特性と看護の役割を理解する 2. 小児看護を支える基本理念を理解する 3. 小児の成長・発達の特徴を理解する 4. 小児・家族を取り巻く社会の変化を読み取り、小児の健康・保健・福祉について理解を深める						
回	学習目標	学習内容				時間	
1	1. 小児の特性と看護の役割を理解する	1. 小児の特性と小児看護の対象 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児医療・小児看護の変遷 4. 小児看護の役割				2	
2	2. 小児看護を支える基本理念を理解する	1. 小児看護の理念 2. 子どもの権利と権利保障 3. 小児医療における倫理的課題 4. 虐待が疑われる小児の看護				2	
3 4 5 6	3. 小児の成長・発達の特徴を理解する	1. 成長・発達とは 2. 成長・発達の原則 3. 成長・発達に影響を及ぼす因子 4. 形態的発達 5. 機能的発達 6. 心理社会的発達 7. 発育・発達の評価				8	
7	4. 小児・家族を取り巻く社会の変化を読み取り、小児の健康・保健・福祉について理解を深める	1. 小児・家族を取り巻く法律と政策 児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法、学校保健安全法 2. 小児医療・小児看護の現状と課題				2	
8	試験とまとめ				2		
合計時間数						16	
講義形式	講義	ビデオ・DVD 視聴					
成績評価	筆記試験	受講態度・出席状況					
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論；医学書院						

科目名	母性看護学概論	担当講師	佐々木寿美礼	単位・ 時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次前期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 母性看護の基盤となる概念を記述できる 2. 母性看護の対象を理解し、それを取り巻く社会の変遷と現状を記述できる 3. 女性のライフサイクル各期における健康と健康問題の予防について記述できる						
回	学習目標	学習内容				時間	
1	母性看護の基盤となる概念を記述できる	1. 母性とは 2. 生命誕生				2	
2		母性意識の発達過程				2	
3		1. セクシュアリティ 2. リプロダクティブヘルス/ライツ 3. ヘルスプロモーション				2	
4		1. 母性看護のありかた 2. 性教育				2	
5		母性看護における倫理				4	
6		母性看護における安全・事故防止				4	
7	母性看護の対象を理解し、それを取り巻く社会の変遷と現状を記述できる	1. 中間試験				4	
8		2. 母性看護の歴史的変遷と現状 3. 母性看護の対象を取り巻く環境					
9	女性のライフサイクル各期における健康と健康問題の予防について記述できる	女性のライフサイクルに伴う形態及び機能の変化と看護の必要性				2	
10		1. 思春期の女性の身体的、心理的、社会的特徴 2. 成熟期の女性の身体的・心理的・社会的特徴				2	
11		1. 更年期女性の健康と看護				4	
12		2. 高齢化が女性の健康に及ぼす影響 3. 老年期女性の健康問題と看護					
13		健康教育				6	
14	グループワーク発表						
15							
16	試験					1	
合計時間数						31	
講義形式	講義	グループワーク	レポート				
成績評価	筆記試験(40点×2) グループ発表(20点)						
テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院				参考図書		
				厚生統計協会 国民衛生の動向			

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	精神看護学概論	担当講師	京野順子	単位・時間数	1単位(30時間)	履修時期	2年次・前期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 精神看護の目的と意義を理解する。 2. 精神のしくみと働きを知り、精神の健康がどのように保たれているの理解する。 3. 人格の発達と情緒体験のプロセスについて理解する。 4. 精神の健康が障害されやすい状況を理解する。 5. 精神の健康を保つための予防について理解する。 6. 現代社会における家族のありようや精神障害者を身内にもつ家族が置かれている現状を知り、必要な支援を行うことの重要性を理解する。 7. 精神医療と看護の歴史的変遷とそれぞれの時代における特色を理解する。 8. 精神医療に関する法の変遷と法の改正に伴う患者の変化を理解し、現在の精神医療の問題点を考える。						
回	学習目標	学習内容	時間				
1 2	1. 精神看護の目的と意義を理解する。	1. 精神看護学の考え方 2. 精神障害の基本的な考え方 1) こころの健康とは 2) 障害の捉え方 3) 社会の変化とメンタルヘルス 4) 精神障害のきっかけとプロセス 5) 対象理解の難しさ 6) 精神障害とともに生きるということ	4				
3	2. 精神のしくみと働きを知り、精神の健康がどのように保たれているの理解する。	1. 人間のごころと行動 1) 人のごころのさまざまな理解 2) ごころと環境	2				
4	3. 人格の発達と情緒体験のプロセスについて理解する。	1. 人格の発達と情緒体験 1) 対人関係論の立場から 2) 対象との出会い 3) 母子関係の発展	2				
5		映画から学ぶ精神看護	4				
6	4. 精神の健康が障害されやすい状況を理解できる。	1. 人生各期の発達課題 1) ライフサイクルとストレス 2) ライフサイクル各期における特徴と危機	4				
7		2. 現代社会とこころ 3. 人間の性格傾向と生活様態、行動パターンに関連	2				
8	前期試験・まとめ		2				
8	5. 精神の健康を保つための予防について理解する。	4. 精神的不健康の予防 1) 第1次予防 2) 第2次予防 3) 第3次予防	4				
9	6. 現代社会における家族のありようや精神障害者を身内にもつ家族が置かれている現状を知り、必要な支援を行うことの重要性を理解する。	1. 家族とその支援 1) 家族とは何か 2) 家族をみる視点 3) 家族の課題 4) 精神疾患と家族					
10	7. 精神医療と看護の歴史的変遷とそれぞれの時代における特色を理解する。	1. 精神医療と看護の歴史的変遷	2				
11 12	8. 精神医療に関する法の変遷と法の改正に伴う患者の変化を理解し、現在の精神医療の問題点を考える。	1. 精神保健医をめぐる法律 1) 精神保健医療に関する法制度の変遷 2) 精神保健福祉法の基本的な考え方 3) 精神保健福祉法による入院形態	4				
13	後半試験・まとめ		1				
合計時間数							31
講義形式	講義、DVD、グループワーク						
成績評価	出席状況 課題提出2割 筆記試験8割						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本 メディカ出版			参考図書 中井久夫・山口直彦 看護のための精神医学 医学書院			